

2023年5月18・19日 宗谷管内複式教育実践講座記録

北海道教育大学旭川校准教授 芳賀均先生によるミニ講演

テーマ 「複式授業のスキルアップをしよう」

～「子供主体」の授業をめざして～

主体性とは・・・「積極性」と「自立性」の2面が必要

表現方法・・・絵、文、言葉、ゼスチャーなど多様な方法がある。

思考、判断、表現の順～最初に判断を行い、思考する。最後に表現を行う。

先生も子供も楽しく授業をするポイント

～どうやってもわからないスリルを味あわせる。

問題に欠陥があることが大切。子供が欠陥を見つける。

子供は面白くなると、自分から勉強を始める。

→子供にゆだねると、子供のやりたいことが見えてくる。

学力差があるから学習が豊かになる。

理想の授業は、先生がいなくても子供が取り組んでいる授業。



昨年度、授業での悩みや理想の授業などについてのアンケートをとり、

悩みの多かった2つの観点を話し合いを行った

- 1 少人数での主体的、意欲的、対話的な授業のあり方（学習リーダーの育成を含む）
- 2 見通しを持った授業をする学習過程のあり方
（わたり、ずらし/学力差が大きい場合など含む）

参加者の感想は・・・

- 1 話し合いができるようにする。友達の意見に興味を持たせる。意見を自信もって言えるし、ちょっとでも思ったことを言える力を子供につけることが大切。
- 2 どの場面でどの資質能力向上をさせるのか、単元構成が大切。
- 3 何を学びたいのか、モチベーションをたかめることが学習への意欲につながる。
- 4 悩みをだし合い、トライアンドエラーを繰り返しながら指導をしていくことが大切。
- 5 小野先生の実践から問題提示のあり方について学べた。

まとめ

この実践講座を通して、子どもの**主体性をつくる授業づくり**をするためには・・・

- ・「間違いは宝」を実践する工夫
- ・授業でのゴールを示すこと
- ・教師の語りを少なく、子供自身で進められる力を
- ・ルールづくり（話し合い、教え合い、伝え合いなど）
- ・授業の現象の見直し
- ・授業方法の見直し
- ・評価のあり方
- ・教室環境を整える

（詳しくは芳賀 T 資料も参考に）

